

【防災メモ】

～大地震はその後の地震にも注意を！～

大きな地震の後には、多くの場合、それよりも規模の小さな地震が引き続いて多数発生します。しかし、最初の大きな地震と同程度かさらに大きな地震が発生することも無いわけではありません。普段から大きな地震に備えることはもちろんですが、いざ大きな地震が発生した場合には、その後発生する地震にも注意する必要があります。

●大地震後の地震活動の見通しと防災上の呼びかけ

気象庁では、最大震度5弱以上が観測された場合など、引き続き地震で被害を生じる可能性がある場合には、どのくらいの期間注意すべきか、震度はどの程度になるか、どのようなことに留意しておくべきかなど、今後の地震活動の見通しについて地震解説資料や報道発表の中で以下のように解説し、防災上の呼びかけを行います。また、地震の発生状況や気象状況についても逐次発表し、注意喚起を行います。

【発生直後】過去事例や、大きな地震が続発しやすいなどの地域特性に基づき、想定すべき最大震度及び注意すべき期間や周辺の活断層への留意などを解説。

【1週間程度以降】最初の大きな地震後の地震活動経過に基づく数値的見通しとして、最大震度5弱以上の揺れとなる地震の発生確率を大地震発生当初や平常時と比較した表現で解説。また、強い揺れに注意すべき期間なども定期的に解説。



発生直後の呼びかけ例

- 過去に付近で同程度の地震が発生した事例は**1～2割存在する**。
- 今後**1週間程度**は、**最大震度7程度**の地震に注意。
- 特に発生から**2～3日程度**は強い揺れをもたらす地震が発生することが多い。

1週間程度経過以降の呼びかけ例

- 最大震度5弱以上の発生確率は当初の**約1/7**だが、平常時と比べると**100倍超**と依然として高い。
- 今後**1週間程度**は**最大震度5強程度**の地震に注意。

今回の震源付近には**活断層が存在**することに留意。
地震調査研究推進本部によれば、この活断層で大きな地震が発生した場合、周辺で**最大震度6強以上の強い揺れ**となるとされている。

平成30年北海道胆振東部地震の記者会見での呼びかけ例 (※この中の数字は事例ごとに異なります)

●地震災害時は正しい情報利用を

災害時には様々な情報が飛び交いますが、中には不安を煽るような根拠の無い噂も少なからずあります。現在の科学では、「震度〇以上の地震が〇日に発生する」というように地震の発生時期や場所・規模を断定的に予測することはできず、具体的な発生日時まで示した情報はデマと思ってよいでしょう。情報の発信元を確認し、科学的根拠の無い情報に惑わされないよう注意しましょう。